

## 第 89 回日本医学会定例評議員会

2022年2月25日(金) Web開催

午後2時開会

**議長**(門田守人日本医学会長) 定刻になりました。定例評議員会にご出席いただきありがとうございます。オミクロン、それからコロナ禍も第6波は少しヒートアウトしたようにも思えますが、重症者・死亡者はまだ増えているということです。また昨日は戦争と言ってしまったほうがいいかもしれませんが、この21世紀にこんなことが起きるのかと思うようなことが起こり、何とも大変な時代が来ている。世の中が非常に進んでくればと思っていたことが、一気に100年以上逆行しているのかのようにも感じています。そのような中ではありますが、本日はぜひよろしくお話ししたいと思います。

今回の定例評議員会は昨年と同様、Webでの開催になりました。5分ほど前の段階で99分科会からご参加いただいております。過半数を超えていますので会議は成立しています。この定例評議員会は毎年2月に開いています。そして会長が議長になるということが規則で決まっていますので、今日もそのようにさせていただきますと思います。

### 日本医師会長挨拶

**議長**(門田日本医学会長) 本日は日本医師会から、松原副会長と羽鳥常任理事に出席していただいております。いつも最初に日本医師会長にご挨拶をしていただいておりますが、本日は中川会長が公務のためご参加されていませんので松原謙二副会長からご挨拶をお願いしたいと思います。

**松原日本医師会副会長** 日本医師会副会長の松原です。先ほどご説明がありましたように、本日は中川会長が公務により出席ができませんた

め、私から代読させていただきます。

日本医学会定例評議員会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。はじめに、日本医学会ならびに各分科会の先生方が新型コロナウイルス感染症の感染拡大がまだ収束しない中、日々感染予防や治療にご尽力されていることに対して心より敬意を表しますとともに、感謝申し上げる次第であります。

日本医師会といたしましても、新型コロナウイルス感染症対策を最重要課題と位置付け、都道府県医師会や関係団体とも協調しながら懸命に取り組んでいます。

2022年度は診療報酬の改定があり、厳しい国家財政のなか本体部分は0.43%のプラス改定となりました。その中でも日本医師会が求めてきた地域医療の確保、質の向上のための財源としてプラス0.23%確保できたことは、多くの医療機関・医療関係者がひっ迫した医療体制の中、きわめて深刻な経営状況にありながら、限界までコロナと闘っていることが政府関係者にもご理解をいただけたということではないかと思っています。

さて、今年は4月2日に日本医学会が創立120年を迎えられると伺っています。感染症の拡大でWebでの開催と伺っていますが、日本医学会では記念誌の作成や、「未来への提言」の作成などに取り組み、鋭意準備を進められているとお聞きしています。

日本医学会の歴史を振り返りますと、昭和23(1948)年に日本医学会は日本医師会の中の学術団体として組織されました。それから74年、日本医師会と日本医学会は車の両輪のごとく協力しながら共に歩んでまいりました。これからも互い

## 第 89 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	坂井 建雄	日本矯正医学会	新妻 宏文	日本臨床細胞学会	青木 大輔
日本解剖学会	(連)仲嶋 一範	日本神経学会	戸田 達史	日本透視医学会	武本 佳昭
日本生理学会	(連)赤羽 悟美	日本老年医学会	秋下 雅弘	日本内視鏡外科学会	坂井 義治
日本生化学会	菊池 章	日本人類遺伝学会	秦 健一郎	日本乳癌学会	井本 滋
日本薬理学会	谷内 一彦	日本リハビリテーション 医学会	(連)安保 雅博	日本肥満学会	小川 渉
日本病理学会	小田 義直	日本呼吸器学会	横山 彰仁	日本血栓止血学会	山崎 昌子
日本痛学会	佐谷 秀行	日本腎臓学会	柏原 直樹	日本血管外科学会	(代)出口 順夫
日本血液学会	三谷 絹子	日本リウマチ学会	竹内 勤	日本レーザー医学会	中村 哲也
日本細菌学会	(欠)	日本生体工学会	(欠)	日本臨床腫瘍学会	(代)高橋 雅信
日本寄生虫学会	丸山 治彦	日本先天異常学会	黒澤 健司	日本呼吸器内視鏡 学会	(連)迎 寛
日本法医学会	久保 真一	日本肝臓学会	(連)竹井 謙之	日本プライマリ・ ケア連合学会	草場 鉄周
日本衛生学会	柳澤 裕之	日本形成外科学会	森本 尚樹	日本手外科学会	平田 仁
日本健康学会	(連)豊川 智之	日本熱帯医学会	金子 修	日本脊椎椎間病学会	(連)波呂 浩孝
日本栄養・食糧学会	吉田 博	日本小児外科学会	(連)小野 滋	日本緩和医療学会	木澤 義之
日本温泉気候物理医学会	(欠)	日本脈管学会	東 信良	日本放射線腫瘍学会	茂松 直之
日本内分泌学会	有馬 寛	日本周産期・ 新生児医学会	中村 友彦	日本臨床スポーツ 医学会	(連)山澤 文裕
日本内科学会	張替 秀郎	日本人工臓器学会	松宮 護郎	日本熱傷学会	佐々木淳一
日本小児科学会	(代)和田 和子	日本免疫学会	三宅 健介	日本小児循環器学会	山岸 敬幸
日本感染症学会	四柳 宏	日本消化器外科学会	齋浦 明夫	日本睡眠学会	内村 直尚
日本結核・非結核性 抗酸菌学会	磯部 威	日本臨床検査医学会	村上 正巳	(オ・連)千葉伸太郎	
日本消化器病学会	持田 智	日本核医学会	橋本 順	日本磁気共鳴医学会	黒田 輝
日本循環器学会	清水 渉	日本生殖医学会	大須賀 穰	日本肺癌学会	(欠)
日本精神神経学会	久住 一郎	日本救急医学会	坂本 哲也	日本胃癌学会	(連)島田 英昭
日本外科学会	鈴木 真一	日本心身医学会	福土 審	日本造血・免疫細胞療法学会	(欠)
日本整形外科学会	(連)竹下 克志	日本医療・病院管理学会	寺崎 仁	日本ペインクリニック 学会	(連)金井 昭文
日本産科婦人科学会	木村 正	日本消化器内視鏡学会	(オ・連)良沢 昭銘	日本病態栄養学会	清野 裕
日本眼科学会	大鹿 哲郎	日本癌治療学会	吉野 孝之	(オ・連)山田祐一郎	
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科 学会	小川 郁	日本移植学会	(連)湯沢 賢治	日本認知症学会	岩坪 威
日本皮膚科学会	天谷 雅行	日本職業・災害医学会	佐藤 讓	日本災害医学会	大友 康裕
日本泌尿器科学会	野々村 祝夫	日本心臓血管外科学会	横山 斉	日本小児血液・ がん学会	(連)米田 光宏
日本口腔科学会	(連)片倉 朗	日本リンパ網内系学会	稲垣 宏	日本老年精神医学会	池田 学
日本医学放射線学会	青木 茂樹	日本自律神経学会	荒木 信夫	日本臨床栄養代謝 学会	(連)福島 亮治
日本保険医学会	品川 貴郁	日本大腸肛門病学会	宮島 伸宜	日本再生医療学会	岡野 栄之
日本医療機器学会	(連)南 正人	日本超音波医学会	(連)平井都始子	日本脳神経血管内治療 学会	宮地 茂
日本ハンセン病学会	向井 徹	日本動脈硬化学会	(連)岡村 智教	日本骨粗鬆症学会	竹内 靖博
日本公衆衛生学会	今中 雄一	日本東洋医学会	伊藤 隆	日本アフエレスシ学会	山路 健
日本衛生動物学会	桐木 雅史	日本小児神経学会	(欠)	日本女性医学学会	(連)寺内 公一
日本交通医学会	(連)高戸 毅	日本呼吸器外科学会	吉野 一郎	日本てんかん学会	(連)池田 昭夫
日本体力医学会	鈴木 政登	日本医学教育学会	(オ・連)伊豫田 明	日本インターベンショナル ラジオロジー学会	村田 智
日本産業衛生学会	森 晃爾	日本医療情報学会	小西 靖彦	日本内分泌外科学会	原 尚人
日本気管食道科学会	(連)齋藤康一郎	日本疫学会	澤 智博	日本骨代謝学会	福本 誠二
日本アレルギー学会	(欠)	日本集中治療 医学会	玉腰 暁子	日本婦人科腫瘍学会	片淵 秀隆
日本化学療法学会	松本 哲哉	日本平滑筋学会	西田 修		
日本ウイルス学会	脇田 隆字	日本臨床薬理学会	(オ・連)土井 研人		
日本麻酔科学会	山藤 道明	日本神経病理学会	柴田 近		
日本胸部外科学会	志水 秀行	日本脳卒中学会	植田真一郎		
日本脳神経外科学会	宮本 享	日本糖尿病学会	柿田 明美		
日本輸血・細胞治療学会	(欠)		(連)西山 和利		
日本医真菌学会	澁谷 和俊		樂木 宏美		
日本農村医学会	佐藤 賢治				
日本糖尿病学会	植木浩二郎				

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席 (オ)：オブザーバー

**役員** 門田会長 飯野・磯・門脇・森副会長

(日本医師会) 松原副会長 羽鳥常任理事

(幹事) 今井・宮園・菊田・川上・春日・小池・小室・寺本・名越・南学・苜原・大川・北川(雄)・齊藤・澤・北・秋葉・  
神庭・里見

**総会** 春日会頭 門脇準備委員長・小嶋事務局長

に協力しながら、知恵を出し合い、医学・医療の抱えるさまざまな問題を共に解決できますよう、歩みを続けたいと思っています。日本医学会、ならびに各分科会が今後ますます発展されますよう期待いたしまして、簡単でございますが挨拶の言葉とさせていただきます。

令和4年2月25日、公益社団法人日本医師会会長 中川俊男、代読、松原謙二です。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

**議長**（門田日本医学会長） 松原先生、ありがとうございました。非常に難しいコロナ感染症の蔓延状況にあって、今われわれが協力してやるべきことをやらなければならないということを深く感じています。ぜひ、今後とも車の両輪としてよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ■ 議事録署名人

**議長**（門田日本医学会長） それでは本日の議事に入りたいと思ひます。最初に、議事録署名人の選出です。こちらから指名させていただきたいと思ひます。基礎・社会医学系からは、日本栄養・食糧学会の吉田 博先生、臨床医学系のほうは、日本内分秘学会の有馬 寛先生にお願ひいたします。

**吉田 博**（日本栄養・食糧学会） 栄養・食糧学会の代表理事を務めております吉田です。よろしくお願ひいたします。

**有馬 寛**（日本内分秘学会） 内分秘学会の有馬寛です。よろしくお願ひいたします。

#### ■ 日本医学会長挨拶

**議長**（門田日本医学会長） 簡単にご挨拶をさせていただきますが、冒頭にも申し上げましたように、今回120周年を迎えるに当たり、100年単位でものを見ています。この間いろいろなことがありましたが、それに対してわれわれは医学の立場から社会を見て、さまざまな活動をしてきています。冒頭でウクライナの侵攻の話に少し触れましたが、そのようなことがありました。それから2日前の2月22日の報道では、医療界にとって非常に問題があったと言わざるをえない、優生保護

法の判決がありました。優生保護法は戦争が終わってからできた法律ですが、それに基づいて多くの方々の不妊手術が行われました。それが違法であることが明確になったにもかかわらず、国は何の賠償もしなかった。しかし、それがこの22日の大阪高裁の判断で、初めて除斥期間を適用しないとされ、これが賠償という民主主義的な発想に繋がった。人権という見方からすれば非常に大きく変わってきた。非常にすばらしい進歩ではないかと思ひます。

われわれも前に進み、自らが反省しながら検証し、そしてどうあるべきかを考えようということをお願ひしてきましたが、そのようなものがやっと形になって表れてきたということです。そのような意味では、非常に心強く思えてまいります。今週はそのような良いことと、それから完全に戦争状態になったという全く悪いことと、正反対のことが何とも言えないタイミングで起こりました。これがわれわれの120周年だということをお願ひをさせられるタイミングだと思ひます。

#### ■ 第31回日本医学会総会準備状況

**議長**（門田日本医学会長） 「第31回日本医学会総会の準備状況」についてのご報告をお願ひしたいと思います。春日会頭、門脇準備委員長、よろしくお願ひいたします。

**春日雅人第31回日本医学会総会会頭** ただ今ご紹介いただきました、春日です。それでは、まず私から第31回日本医学会総会の準備状況についてのあらましをご紹介申し上げます。第31回の日本医学会総会は「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」というテーマで、明年2023年4月に東京で開催する予定です。学術集会は4月21～23日、学術展示が4月20～23日、そして市民展示（博覧会）が4月15～23日までの予定です。会場はいずれも東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリアです。

もう一度、この4年に1度医学会総会を開く目的を考えてみますと、1つは日本医学会を構成す

る各学会（分科会）が一堂に会して、医学・医療をめぐる課題について広く分野横断的に討議すること。それからもう1つは、医学・医療の現状、課題、将来像の社会への発信と対話です。第31回の基本構想といたしましては、ビッグデータに体现されるAI、IoT、ロボティクスなどの技術革新を核としたデジタル革命が進行し、社会は歴史的な転換点を迎えている。それに伴い、医学・医療も大きく変わろうとしている。それではどのように、あるいはどのようなスピード感でこの医学・医療が変わっていくのかということについて、参加者の皆さんと共通の認識を持ちたいというのが基本構想であります。

これが主なプログラムです。

特別講演で、すでに内諾をいただいていますのは政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身 茂先生（地域医療機能推進機構理事長）、それからハヤブサの津田雄一先生（JAXA教授）、それからオートファジーの大隅良典先生（東京工業大学栄誉教授）です。そのほか、何人かの先生に今交渉をさせていただいています。

先ほど申し上げましたように、ビッグデータがどのように医学・医療を変えるかというのが基本構想でしたが、それ以後COVID-19の非常な流行、蔓延がありました。したがって、これについても皆さんと一緒に考えたいということで、そこにありますように「COVID-19に世界はどう対応したのか?」、「COVID-19に日本はどう対応したのか?」、あるいはがんの問題、それから「2024年の医師の働き方改革元年を翌年に控えて」ということで働き方改革、さらに「地域医療構想」、「医療と臨床研究における患者・市民参画(Patient and Public Involvement: PPI)」、このようなことを特別企画として考えています。

本日は時間の関係でこれ以上ご披露できませんが、より詳細なプログラムならびに展示については、ホームページに掲載していますのでぜひそれをご参照いただきたいと思います。

第31回総会の特色といたしましては、ここにありますように学術集会和展示会場が同一エリアで、そのような意味では非常に利便性があるとい

うことです。ハイブリッド形式での開催ですので、当日残念ながらご参加いただけない方はオンライン、Web配信で、講演ならびに展示をお楽しみいただきたいと思いますし、講演の一部に関しましてはオンデマンド配信も実施する予定にしています。

以上で私の紹介を終わりにしまして、詳細については準備委員長の門脇先生にお願いいたします。ありがとうございました。

**門脇 孝第31回日本医学会総会準備委員長** 準備委員長の門脇です。準備状況について簡潔にご報告いたします。手元の資料をパワーポイントに起こしたものです。少し追加の情報もパワーポイントに入れています。

組織委員会はこの下にある10の委員会を束ねる親の委員会でありまして、年3回ずつ開催しています。10の委員会の中で「新設」とありますのは、男女共同参画等委員会を新設いたしました。その後のさまざまなこの分野での流れということ踏まえて、ダイバーシティ推進委員会という新たな名称に変更し現在活動しています。

学術委員会は南学委員長です。5つの柱に基づいてプログラムを策定しています。春日会頭からもお話がありましたが、約50セッションのプログラム、会頭特別企画、そしてこの後述べますが日本医学会総会奨励賞の検討、産業医の研修単位取得セッションなどを設けています。

総務委員会は斎藤委員長です。講演会場は東京国際フォーラムをはじめ約30か所。そして各分科会の認定単位数は、前回大会より13学会増加し合計90学会です。コンgresス枠の検討、また、一般市民を対象とした市民公開講座の開催等の準備を行っています。

登録委員会は国土委員長です。2月1日より事前登録を開始しています。事前登録は右に、少し字が小さいのですが、医師・歯科医師・研究者は当日参加では35,000円です。事前登録10月31日までは25,000円ですので、早めのご登録をお願いいたします。また団体割引制度は、11名登録で1名無料ですので活用していただければと思います。Under 40, Over 75については参加費につ

いて10,000円の割引をしています。今回初めての試みとして国土登録委員長は、全国の医学部・医科大学・都道府県医師会と日本医学会分科会に登録推進委員の選出をお願いし、現在登録委員の方々が活動されています。

展示委員会は青木委員長です。「みんなで健康 みんなの医療 みんなが長寿」ということでロゴマークを作成し、学術展示に加えて、これまで一般展示あるいは市民展示と呼ばれていたものを「博覧会」としてその準備を行っています。また、オンラインの学術展示や博覧会についても、これを企画しているところです。ホームページ内にこのようなページがありますので、春日会頭からもありましたが、ぜひご参照ください。

広報委員会は岡野委員長です。ここに示したような、正式なポスターを定めました。応募総数107作品から最優秀賞1点として選ばれたものです。また、組織委員へのインタビューや、各委員会の活動状況もホームページに掲載されています。

式典委員会、開会式・閉会式ともに、東京国際フォーラムで開催予定です。会頭招宴、開会式、閉会式はこのようになっています。式典委員会は沖永委員長です。

財務委員会は間野委員長です。透明な財務を構築するために、会計事務所に経理処理を依頼しています。

記録委員会は松藤委員長であります。恒例となっていますが、岩波記念新書『医の変革』を総会当日に発行予定です。また、総会の“基本理念”をテーマとして子ども向け絵本等の出版を計画しています。

ダイバーシティ推進委員会は大野委員長です。分科会への講演依頼を現在進めているところです。日本医学会から5つの分科会それぞれの、基礎・社会・臨床医学における、ダイバーシティ推進の取り組みをご発表いただくこととなります。また、学術プログラム登壇者についての男女のバランスというものを考慮しながら進めています。

ソーシャルイベント委員会は、東京都医師会の副会長の角田委員長です。次年度の事業計画であります。学術プログラムの最終決定・依頼、プロ

グラムに合わせたハイブリッドという新しい開催形式ということで、その最終的な決定、展示コンテンツの決定、開会式・閉会式等の内容の招待者の決定、開催当日の運営計画の策定、総会企画の実施等です。

ここには、総会奨励賞のことが入っていませんので、口頭にはなりますが総会奨励賞についてごく簡単に説明いたします。日本医学会加盟の分科会および日本医師会から、会員数5,000名を基準として、それより少ないところでは1名、多いところでは2名の候補者を推薦いただいて、基礎、社会医学、内科系、外科系の4領域から候補者を推薦いただきます。各領域にて5名程度の奨励賞受賞者を選出していただきます。その奨励賞受賞者については、総会期間中に受賞講演にて発表していただき、その内容を審査のうえ各領域より1名の最優秀奨励賞を決定いたします。最優秀奨励賞受賞者の発表および授賞式は、総会最終日に実施します。応募条件ですが、日本医学会分科会もしくは日本医師会に所属している者で、医師に限定しない、年齢は40歳以下です。2019年以降の発表の論文を対象とし、受付期間は5月1日から9月30日までです。各学会では5,000名以内の学会員の場合には1名、5,000名以上の場合には2名のご推薦をよろしくお願いいたします。以上です。

最後に本総会のプロモーションビデオ、これは昨日できあがったばかりのものですが、ご披露させていただきます。約1分ですので、よろしくお願いいたします。

—ビデオ上映—

議長（門田日本医学会長） 春日会頭、門脇準備委員長、どうもありがとうございました。順調に準備が進んでいるというように思いました。ぜひよろしくお願いいたしますと思います。

## 2021年度日本医学会年次報告

議長（門田日本医学会長） それでは、2番目の「2021年度日本医学会年次報告の件」に入りたいと思います。これも私が進めさせてもらいたいと思いますが、少し長くなることをお許しください。

資料 1. 最初の 1 ページ目は日本医学会総会の話です。ただ今ご報告がありましたのでこれは省略します。

2 番目「日本医学会幹事会」。これは今日のこの前に開催しました。

3 番目「日本医学会臨時幹事会」。これは今年の 6 月 11 日に行いました。

4 番目「日本医学会評議員会」。この会そのものであります。

5 番目「日本医学会臨時評議員会」は、今年の 6 月 18 日に行っています。これは日本医学会分科会の名称変更の際の対応について、日本医学会の規則の変更、それからこの件につきましてはまた後ほど説明させていただきます。出生前検査認証制度等運営委員会、学会名の変更について等を検討しました。それから次の第 32 回の医学会総会の開催をどこかお願いできませんでしょうか、というお話もさせていただきました。

6 番目「日本医学会シンポジウム」。これは 4 ページになりますが、コロナ禍でのことで、無観客で収録のみ行い、ホームページで配信するという方法で開催しました。収録は 7 月 10 日、タイトルは「医療ビッグデータ・AI を活用したこれからの医療」。もう 1 回は 12 月 25 日に「医療勤務環境改善による医師の働き方改革—医師としてどのように働きたいか—」を開催しています。それからこのシンポジウムの場合は、企画をするのに企画委員会を 5 月・10 月に開催しています。

7 番目「日本医学会公開フォーラム」。6 月と 12 月に開きました。6 月は「ウィズ・コロナ時代の医療の在り方」、12 月は「ワクチンについて考える」で、両者ともコロナ時代のテーマになっています。

8 番目「日本医学会協議会」。これは日本医学会会長・副会長と、本日ご出席の担当副会長の松原副会長、羽鳥常任理事とで、毎月定期的に行っているものです。

9 番目「日本医学会医学用語管理委員会」。この委員会は日本医学会としては一番古い、戦前からある委員会で、大江委員長をはじめ 14 人の委員と協力会社で構成されています。

日本医学会用語辞典 Web 版は、日本医学会ホームページで公開されていますが、医学・医療における電子化された専門用語データベースになることを目指して、これから時代の問題として少し改訂する必要があるのではないかということで準備を進めています。

10 番目「遺伝学用語改訂に関するワーキング」。これはご存じのように、遺伝学用語という中で、特に優性遺伝・劣性遺伝というような単語が、遺伝の話ですが優劣というような言葉を使うことはどうかという話がありました、それをどうするかということを検討したものであります。最終的には「顕性遺伝」、「潜性遺伝」というような形で表すと、そしてしばらく分かりにくいと思われる場合は、顕性遺伝（優性遺伝）、潜性遺伝（劣性遺伝）として、5 年くらいはこれを付けてもいいだろうと、そしてその後、正式に外していくことを決めました。

11 番目「『奇形』を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ」。この「奇形」という単語もいろいろな意味合いがありまして、これについてもどのように考えていくかということ、現在検討してもらっていることが書かれています。

12 番目「用語表記基本指針策定ワーキンググループ」。これは「医学用語管理委員会」の下に新しく作られたワーキングです。先ほど医学用語における用語の表記方法の基本方針を決めて、デジタル化に合わせて見直すということを申しましたが、その基本方針を決めておく必要があるということで、久具宏司先生を委員長に検討していただいています。

13 番目「日本医学会分科会用語委員会」。これはそれぞれの分科会から選出いただいた用語委員にご出席をいただき、年に 1 回開催するものです。

14 番目「日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会」。これは医学会が医師会より選考を委託されているものです。去年は 4 名の医学賞と 15 名の研究奨励賞が選出されました。この賞の賞状には日本医師会長と選考委員会の医学会長の両方の名前を付けて、賞状として渡しています。

15 番目「日本医学会加盟検討委員会」。これは

10ページになりますが、医学会への加盟申請のほか、加盟のあり方等も検討しています。これにつきましては、後ほど森委員長からお話をさせていただきます。

16 番目「『遺伝子・健康・社会』検討委員会」。これは信州大学の福嶋先生が委員長として開催しています。遺伝情報、ゲノムによる差別の防止についての共同声明を出すことを検討し、また企業における遺伝医学的検査・診療に関するガイドライン改訂についての検討を行っており、ほぼ結論を出していただいたということです。

17 番目「日本医学会利益相反委員会」。これは徳島大学名誉教授の曾根三郎先生が委員長をしています。日本医学会 COI 管理ガイドラインの一部改訂を行いました、これも後ほどご報告をいたします。

18 番目「日本医学会分科会利益相反会議」。従来の大講堂で分科会から出席いただいて開催していたものが、集合しての開催ができなくなったので、ホームページで映像配信することを予定しています。

19 番目「日本医学会産学連携健全化ワーキンググループ」。これも新しく立ち上げたものですが、これは医療情報といいますが、講演会等の講師のスライド等を製薬企業による事前チェックが行われていることに対して非常に違和感を感じる、これをどうするかということを検討してもらっています。これも先ほどの曾根三郎先生に委員長をお願いしています。

20 番目「日本医学会雑誌編集者組織委員会」。これは東大名誉教授の北村 聖先生が委員長で、ガイドラインの改訂を行うというものです。これも後ほど報告させていただきます。

21 番目「日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム」。これも 6 月に無観客で開催し、ホームページで講演の情報を公開しています。

22 番目「研究倫理教育研修会」。これは日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会、これら 4 つの委員会が合同で研究倫理の研修を目指して行っ

ています。

23 番目「日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会」。これは日本産科婦人科学会と日本移植学会から日本医学会に検討の要望が来たものですが、医学界全体として子宮移植を考えるということで対応しています。昨年の 7 月に報告書をまとめ、記者会見を行いました。

24 番目「日本医学会総会あり方委員会」。これはまさに日本医学会総会のあり方について検討する委員会です。

25 番目「再生医療等レジストリ協議会」。これは日本再生医療学会から相談をされたのですが、再生医療は再生医療学会だけで考えても非常に幅広くなってということもあり、医学会として全体を見渡す仕組みを作ってほしいということで立ち上げたものです。

26 番目「日本医学会創立 120 周年記念事業」。これは後ほどまた報告させていただきたいと思います。

27 番目「移植関係学会合同委員会」。これは厚生労働省からの依頼で、日本医学会長が世話人を務めており、毎年開催されています。移植施設の認定などを行っています。

28 番目「出生前検査認証制度等運営委員会」。NIPT を実施する非認定施設の増加により、妊婦に対して適切な遺伝カウンセリングが行われることなく、NIPT の検査を受検するケースが非常に増えているということが社会問題になりました。そこで厚生労働省の厚生労働科学審議会専門委員会で検討し、やはり新しい組織として仕組みを作る必要があるのではないかとということが検討され、改めて厚生労働省から日本医学会に委員会の設置を依頼され、今始まったところであります。

29 番目「日本医学会 e-News」。これは年 2 回発行していた『医学会だより』をこのような形に切り替えたものです。

30 番目「情報発信」。2000 年 10 月から立ち上げたホームページをリニューアルし、スマートフォンに対応できるような形にしたということです。

それから「会議等の開催数」等は、18 ページに

挙げているとおりであります。

「その他」として、報告書等が掲載されています。

以上が年次報告です。

### ■日本医学会予算

**議長**（門田日本医学会長） それでは「日本医学会の予算」に移りたいと思います。資料5を見てください。これは2021年度の日本医師会の予算の中で日本医学会の予算部分が記されており、合計で1億4,043万円になっています。2022年度も同額の予算をいただいたとお聞きしています。

### ■日本医学会創立120周年記念事業

**議長**（門田日本医学会長） 次の報告事項として3番目、「日本医学会創立120周年記念事業」です。これは資料1の年次報告の15ページに書いていますのでご覧いただきたいと思います。

日本医学会が最初第1回を開いたのが明治35（1902）年4月2～5日に16分科会が集合して、東京音楽学校で第1回日本聯合医学会を開催したことから、今年が120周年に当たるというものです。これを記念して、式典、シンポジウムのほか記念誌と「未来への提言」の作成を考えています。記念誌は過去の120年を振り返るというものでありますが、過去から未来を見渡すということで「未来への提言」の作成も行います。過去のしっかりとした資料を集め、それを冊子として未来に向かっての提言を今の時点でどう考えるかということを含めてまとめるものです。そのようなことを4月2日に発表するという形です。このコロナ禍の今の状態でありますので、Web下の開催を考えています。今まさにもうあとわずかなところを準備しているということになります。

### ■「遺伝子情報・ゲノム情報による不当な差別や社会的不利益の防止」についての共同声明

**議長**（門田日本医学会長） 報告事項の4「『遺伝子情報・ゲノム情報による不当な差別や社会的不利益の防止』についての共同声明」です。

現在、全ゲノムの解析研究が国策として進めら

れていますが、一方、遺伝情報、ゲノム情報による差別、不利益の防止対策は不十分であるとの指摘があります。日本医学会では「遺伝子・健康・社会」検討委員会で検討を行い、共同声明案を作成して分科会の皆様からご意見をいただき、そしてそれを最終的な形にまとめました。これは医学会だけよりも日本医師会も含めて出すほうが、社会に対するインパクトも大きいのではないかとということで、現在、日本医師会長に話を進めており、検討していただいているということです。

報告事項の5「日本医学会規則」。これは日本医師会定款の変更です。資料7を見ていただきたいと思いますが、これは現在、定款にそぐわない点が生じており、それがそのままになっているという状況であるので、この部分を修正するというところで昨年9月の臨時評議委員会において、修正箇所を提案し、それをまとめたものを、日本医師会定款・諸規定検討委員会に提出し、現在医師会内での手続きを進めているという段階です。内容は、実際の活動と合わないところを修正しました。たとえば、現在副会長は4名ですがその昔は基礎・社会・臨床各1名で3名でした。現在は臨床外科・臨床内科の2つに分かれており、4名です。修正したというようなことです。また任期についても、実質的に現実に沿っていないものを整理したということです。そのほかにも特にこの第5章というところに「分科会会長会議」というようなものが、もう全く開かれていないのにもかかわらず定款上残っているということで、これも削除していただいたという報告です。

### ■日本医学会COI管理ガイドライン一部改定について

**議長**（門田日本医学会長） 報告事項の6「『日本医学会COI管理ガイドライン』一部改定について」です。

COI管理ガイドラインについては、国際基準とされるICMJEリコメンデーション等との整合性を図るということで改定をされたものです。ICMJEは2019年に論文投稿時に著者個々に対するCOIの申告だけではなく、第三者組織や団体と

の職務上の諸活動を含むすべてのかかわり合いの申告を求める、として昨年の4月から適用しています。これについては、われわれはわが国においてもそれに合わせてICMJEのDisclosure Formを利用できるような形をとりたいとするものです。

また、現在、学術集会等の発表については、企業による講演の事前スライドチェックが行われており、学術講演の内容として独立性とか、公正性というようなことが問題になっていることがありますので、21ページの5行目に、「学術講演者は企業主催・共催を問わず、講演内容にかかる独立性と公正性を担保し、自ら学術的に説明責任を果たさなければならない。特に、企業スポンサーの学術講演を依頼された研究者は医の倫理を遵守し、承認（又は認証）後の医療用医薬品、医療機器又は再生医療等製品を医療関係者等が適正に使用することができるように、正確な情報の伝達に努めなければならない」と加筆。これは少し問題があったのですが、このような形で加筆しようということで、先ほどの幹事会でご了解いただいたというものです。これが6番目。

#### ■日本医学会医学雑誌編集ガイドライン

議長（門田日本医学会長）7番目「『日本医学会医学雑誌編集ガイドライン』について」です。医学雑誌編集ガイドラインは2015年3月に発行し、その後7年が経過し、状況がどんどん変わっているにもかかわらず変わっていなかったというようなこともあり、改訂をするというものです。その案を作り、各分科会の皆さんと意見交換しながら作成したものがこれです。これが7年ぶりの新しいガイドラインで、第2版を出させていただくということになりました。

#### ■日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」

議長（門田日本医学会長）8番目「日本医学会『医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン』」。日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」については、2011年に作成され、わが国の遺伝医療のガイド

ラインとして広く応用されてきましたが、次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝学的検査、新しい検査技術の医療応用、個人情報保護法、医療法などの改正もあったことから、2011年以降の状況に適応するために改訂を行いました。分科会の皆様から意見をいただき、それを反映させたものをまとめたというものです。これについても本日お認めいただきましたので、後日ホームページに掲載することになっています。

#### ■第32回日本医学会総会

議長（門田日本医学会長）それからその次ですが、9番目、先ほどもちょっと触れましたが、「第32回日本医学会総会」開催の会頭を担当して下さる方を募りたいと思っているということ、昨年6月にも申し上げたのですが、今まだ決まっておられません。先生方で2027年に開催予定のこの第32回医学会総会開催を担当していただく方をご推薦または手を挙げていただきたいということです。そのような話がありましたら、ぜひご連絡をいただけたらと思っています。

ということで、非常に長々となりましたが、報告事項9件についてご報告させていただきました。何かご質問・ご意見等ありましたらおっしゃっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。手を挙げていただきたいと思いますが、

島田英昭（日本胃癌学会） 島田から質問してもよろしいですか。

議長（門田日本医学会長） はい、どうぞ。

島田英昭（日本胃癌学会） 門脇先生に、医学会のところのご説明の中にあつたダイバーシティのところをちょっと教えてほしいのですが、途中で男女のバランスに心配りしましょうということをおっしゃったと思うのですが、国際学会などは発表者の20%を女性にするとか、いろいろ数値目標を入れているところが増えてきて、今回医学会総会は日本国内の各種の医学会に与える影響力が大きいと思いますので、「バランス」というのは具体的には何か数値目標とか話題に出ているのでしょうか。私も今年小さい学会をやるものですから、参考までに教えていただければと思います。

**門脇準備委員長** 門脇です。基本的にはすべてのセッションで、座長、また演者、それぞれに少なくとも1名女性を加えることが望ましいという形で運用しています。特に演者については、大部分のセッションでそのようになっています。20%という値は、具体的には少ない数字だというように思っています。50%を目指すという中で実際にもう1/3くらいにはなっているのではないかと思います。現在そのような方向です。

一言付言いたしますと、男女共同参画等推進委員会というものは、長い医学会総会の歴史の中で31回、春日会頭がぜひということのできた委員会です。そこで男女共同参画のことについても進めてきましたが、それだけではなくダイバーシティを推進するというのは、より大きな考えでありますので、男女共同参画ということを堅持しつつ、ダイバーシティ推進委員会という名前に変えたということです。よろしかったでしょうか。

**島田英昭** (日本胃癌学会) はい、どうもありがとうございます。

**議長** (門田日本医学会長) ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは報告事項についてはここまでとして、その次に本日の協議事項に入りたいと思います。

## 2022年度日本医学会事業計画

**議長** (門田日本医学会長) 「2022年度日本医学会事業計画の件」です。資料2を見ていただきたいと思います。これは先ほど長々とこれまでの事業報告をいたしました。基本的には見ていただいたら分かりますように、特に大きく変わるものではないということです。

次年度としては、4月2日に120周年記念事業をすること。この120周年記念事業もこの4月に開いて終わりということではなく、特に未来への提言等は、そこから最終的に皆さんと意見交換をしながら最終版を作るというような作業があり、あるいはもう1つは医学会総会が来年開かれるということで、それに向けてのことがさらに忙しくなってくるということです。そのほかのことにつ

いては、毎年開催していることと変わらないということをごにこに挙げさせていただいています。何かご発言はありますでしょうか、よろしいですか。

それでは決を採りたいと思います。この方針に賛成の方、挙手をお願いいたします。

—挙手— 110名

ありがとうございました、賛成110ということで承認されました。

## 2021年度日本医学会加盟学会

**議長** (門田日本医学会長) 「2021年度(令和3年度)の日本医学会加盟の件」です。この件につきましては、加盟検討委員会の委員長である森先生をお願いします。

**森 正樹加盟検討委員会委員長** 2021年度につきましては昨年の5月15日に新規加盟申請の募集をいたしまして、7月31日の締め切りまでに、ここにあります1番の日本臨床整形外科学会をはじめとして23の学会から加盟申請がありました。

はじめに第一次の審査としまして書面審査をすることになっていきますので、13名の委員によって書面審査が行われました。11月30日に委員会が開催されまして、書面審査を通過した学会につきまして十分な議論をいたしました。その学会の学術性、国際性、社会への貢献度など、さまざまな観点から審議することになっています。その結果、日本肝胆膵外科学会、日本臨床神経生理学会、日本食道学会の3つの学会を日本医学会加盟検討委員会として推薦することになり、2022年1月7日の第10回日本医学会協議会に報告いたしました。協議会で了承が得られましたので、本日開催の第5回日本医学会幹事会に提出し、同様に了承が得られましたので、本日のこの会議にお諮りしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

**議長** (門田日本医学会長) ありがとうございます。毎年たくさんの学会が応募し、30学会くらいが応募してくれて、2~3の学会が承認されるという非常に厳しい狭き門というようになっていますが、今年はこの3学会をということになりました。

た。この件につきまして、ご発言がありましたら  
お願いしたいと思います。どなたかご発言ありま  
せんか。特にないですか。それでは、これも承認  
事項ですので、皆さんの賛成を諮りたいと思いま  
す。賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

—挙手— 127名

ありがとうございました。127の賛成が得られ  
ましたので、承認ということにさせていただきます

と思います。

ということで、本日予定した議題は以上ですべ  
て終了します。このような難しいタイミングに開  
催している会ですが、折角の機会ですのでご発言  
があればおっしゃっていただきたいと思いま  
すが、いかがでしょうか。よろしいですか。特にな  
いようでしたら、日本医学会の定例評議員会はこ  
こで終わることにさせていただきます。